

の上つよく黄色にて見事也、和のかわらひわの聲に似て、轉至て高音にていさぎよく面白き物也、巢の所未考、尾長くめづらしき類にて少し。

〔飼鳥必用^中〕カナアリヤ

此鳥大古より間々紅毛人長崎へ持渡たる鳥に候得共、皆雄計相渡り、雌は不渡候故、日本の地にて子を生立る事なし、然處天明年中、紅毛人自分なぐさみに初而持渡番鳥也、長崎出島屋敷にて年々子を取り生立、此親鳥其節之御奉行御所望に而、初て東都^江御持歸り、然る處駿河臺の御旗本何某と申御方御貫にて、直に子出來たるよし、生立無功して皆とも落鳥と相成、又候翌年工夫を以澤山生立、二三年も外方へ持出候而、段々被出候、夫々今以江戸中は勿論、日本國中皆飼覺、子は何方にて生立、當時カナアリヤにも、極黄并ぶちカナアリヤ、又はカハフスとて色々名ありけれ共、極黄といへるは紅毛人持渡し羽色也、無地黄といふは日本にて生立羽色也、黄色抜て白色毛に也しを、則無地黄とて名附のしこ府のぶち杯も出來、此内に色合能きをカアフスと名附東にて飼立たる人の見立し名なり、古へ紅毛を相渡りたるは皆極黄也、玄かしぶちもあれ共、是逆も極黄筋のぶち、此鳥を飼に紅毛國より持渡りしものに、カナアリヤサアと云麥の小サナよふのものあり、是を飼て子を生立、何鳥にても粒餌鳥は能く好む品也、十月植付、來三四月頃は實のり、葉も麥に似て能く出來るもの、玄かし麥ほど澤山には、實を取る事なし。

カアフスカナリヤ

天明年中、紅毛人貳羽持渡薩州^江相廻り候處、貳羽共雄也、此鳥のしこ府のカナアリヤにて、總羽至て青シ、頭平にして尾長し、鳥の姿は別によりしく、當時カナアリヤカアフスとて候が大キな違ひ、紅毛渡りのカアフス見たる人は、其處能くわきまへ有べし、今世にては其鳥をば不知故、鳥に面々の名を付候處、是にはむりなる名もある也、餌飼人知る處也。